

平成29年度 文部科学省委託  
「幼児期の教育内容等深化・充実調査研究」報告書

# 絵本を通じた計画的環境による 教育内容の深化・充実について

～多様な対話が育む幼児期のコンピテンスとその評価～

平成30年 3月

松 蔭 大 学

# 目 次

I	研究の背景と目的	2
II	実施調査	2
1	質問紙調査	3
1)	調査の概要	3
2)	分析方法	4
3)	結果と考察	5
2	インタビュー調査	23
1)	調査の概要	23
2)	結果と考察	24
III	研究のまとめと今後の課題	26
1	研究のまとめ	26
(1)	保育者の絵本の読み聞かせに関する意識のあり方について	
(2)	読み聞かせ後の多様な対話から豊かな言葉や表現を育む	
(3)	コミュニケーションの場としての絵本コーナー	
2	今後の課題	28
	おわりに	28

## I 研究の背景と目的

平成30年4月より、平成29年3月に告示された幼稚園教育要領が全面実施される。この新しい幼稚園教育要領は中央教育審議会による「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（平成28年12月）」に基づいて改訂されており、当該答申では、「高等学校を卒業する段階で身に付けておく力は何か」、「義務教育を終える段階で身に付けておく力は何か」を幼児期の教育、小学校教育、中学校教育、高等学校教育それぞれの在り方を考えつつ、幼児教育から高等学校教育までを見通した資質・能力が示された。このことを踏まえて幼児期の教育においては、「知識・技能の基礎」「思考力・判断力・表現力等の基礎」「学びに向かう力・人間性等」を育むこととされた。これらの資質・能力は、新幼稚園教育要領の第2章の示すねらい及び内容に基づき幼児の発達の実情や幼児の興味・関心等を踏まえながら、展開する活動全体によって育まれるものであり、その結果資質・能力が育まれている5歳児後半の具体的な姿として「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示された。

言葉の獲得に関する領域「言葉」のねらいにおいて示されている「日常生活に必要な言葉がわかるようになる」とともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、先生や友達と心を通わせる」ことを実現していくためには、幼児が絵本との豊かな出会いをすることも重要であると考えている。また、その重要性については、先行研究におけるいわゆるコンピテンス等からもいえる。

幼児の言葉を育てる言語環境としては、母語を育む養育者、モデルとなる話し手、受け止めてくれる聞き手等の人的環境のほか、心地よいやりとりの場や生活の中に身近にある音（テレビ・DVD）、などの多様な環境があげられる。これらだけでなく絵本でも、幼児の興味・関心の幅を広げ、その興味・関心と結びつけられた「ひと・もの・こと」との多様な対話により幼児の思考が育まれると考えられる。しかし、幼稚園や保育所、幼保連携型認定こども園などの施設は多様性があり、保育の中では視聴覚教材として、絵本、紙芝居、パネルシアター、エプロンシアター、テレビ、ビデオ、DVDなど様々なものが用いられるなかで、絵本等に関する環境は園の実情に応じて様々である。

そこで、本研究においては、絵本等を計画的に用いて、直接的、間接的経験の中で多様な対話を育み、幼児期の教育の深化・充実を図ることを目的に、質問紙調査とインタビュー調査を実施し、現状を明らかにするとともに、絵本等を活用した環境の在り方について考えた。

## II 実施調査

調査の実施に当たっては、質問紙調査とインタビュー調査を行った。

# 1 質問紙調査

## 1) 調査の概要

東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県の幼稚園、保育所、認定こども園（以下、まとめて「園等」とする）において3歳から5歳児の学級・クラスを担当している幼稚園教諭・保育士・保育教諭（以下、まとめて保育者とする）を対象に調査した。207園等に郵送によって質問紙調査を依頼した。倫理的配慮として調査は匿名であり、園等や個人が特定されないことを文書で説明したうえで、協力が任意であること、同意する場合のみ回答してもらうこととして行った。実施期間は平成29年12月1日から12月15日とし、平成30年1月10日返送分までを対象とした。回収率は、配布園等数207園のうち111園等で53.6%、保育者621名のうち308名で49.6%であった。

調査項目は以下の通り。

### A. 園等について

- ① 園等の種類。
- ② 3歳児以上の学級・クラス数及び在園者数。
- ③ 所蔵する絵本はどこに置いているか。
- ④ 保護者や地域の方など先生（幼稚園において学級を担当している幼稚園教諭、保育所においてクラスを担当している保育士、幼保連携型認定こども園において学級を担当している保育教諭のこと。以下「先生」とする）以外の人による読み聞かせの機会は設けているか。
- ⑤ 所蔵する絵本はどのようにして備えているか。

### B. 記入した先生自身について

- ⑥ 保有する幼稚園教諭免許の種類と保育士資格。
- ⑦ 保育の経験年数。
- ⑧ あなた御自身は余暇に読書（雑誌・コミック誌以外の文学作品など）をすることが好きで、読むか。
- ⑨ 今までに絵本に関する研修等に参加したことがあるか。

### C. 担当している学級・クラスについて

- ⑩ 現在担当している学級・クラスの年齢。
- ⑪ 現在担当している学級・クラスの幼児の人数。
- ⑫ 現在担当している学級・クラスでの1週間の教育時間等（幼稚園・幼保連携型認定こども園における教育課程に係る教育時間及び保育所における保育時間のこと。以下、「教育時間等」とする）を、学級・クラスの幼児が全員で一緒に同じ内容の活動を行う時間とその他の時間に大まかに振分けた時、幼児が全員で一緒に同じ内容の活動を行う時間の割合（昼食や午睡、おやつは除く）。
- ⑬ 普段、学級・クラスの保育室に絵本は何冊程度用意しているか。
- ⑭ 絵本を用意し保育室の環境構成を行う際に、次に示すことをどれだけ重視するか。

- (ア) 幼児がじっくりと見たり読んだりすることができるよう配慮すること。
  - (イ) 遊びとつながるよう配慮すること（例：絵本の内容が遊びに取り入れられる・見つけたものを図鑑で調べられるなど）。
  - (ウ) 幼児同士が複数人で見るができるように配慮すること。
  - ⑮ 読み聞かせした後の絵本は、幼児が自由に見たり読んだりすることができるようにしているか。
  - ⑯ これから読み聞かせをしようとする予定の絵本は、幼児が自由に見たり読んだりすることができるようにしているか。
  - ⑰ 現在担当している学級・クラスでは、家庭へ絵本の貸し出しをしているか。
- D. 担当している学級・クラスでの絵本に関する活動について
- ⑱ 保育者による学級・クラス全員に対しての絵本の読み聞かせは、1週間の教育時間等の中でどの位するか。
  - ⑲ 直近の1週間を振り返って、先生が絵本の読み聞かせをした際に、学級・クラス全体ではなく、学級・クラスの中のどれ位の幼児に個別に（一人でも数人でも希望者を対象に）絵本の読み聞かせをしたか。
  - ⑳ 絵本の読み聞かせを行う本を選ぶ際に、次に示すことをどれだけ重視するか。
    - (ア) 読み聞かせを行う幼児の年齢や発達。
    - (イ) 読み聞かせを行う幼児の体験や行っている遊び。
    - (ウ) 読み聞かせを行う時期の季節や行事。
    - (エ) 指導計画・保育計画。
  - ㉑ 学級・クラス全体での読み聞かせ中に、幼児のつぶやきに対して肯定的な発言を行っているか。
  - ㉒ 学級・クラス全体での読み聞かせ後に、幼児に対して感想を聞いているか。
  - ㉓ 個別の読み聞かせ中に、幼児のつぶやきに対して肯定的な発言を行っているか。
  - ㉔ 個別の読み聞かせ後に、幼児に対して感想を聞いているか。
  - ㉕ 現在受け持っている学級・クラスでは、読み聞かせ中に、幼児の絵本に関係した発話が活発にあるか。
  - ㉖ 読み聞かせの後の活動で、絵本の内容が話題になったり、遊びで展開されたりするか。

## 2) 分析方法

分析内容は、それぞれの項目をまず単純集計し、その後、各項目の相関関係をみるため、選択肢を得点化し、相関係数を算出した。調査対象者は308名だが、回答に欠損のある者を除き、分析対象者は283名であった。さらに、「絵本の環境構成で幼児がじっくり見たり読んだりできるよう配慮すること」、「絵本の環境構成で遊びとつながるよう配慮すること」、「読み聞かせ中に、幼児の絵本に関する発話が活発になること」、「読み聞かせ後の活動で、絵本の

内容が話題になったり、遊びで展開されたりする」に関してどのような要因が影響するのかを検討するため、重回帰分析を行なった。

### 3) 結果と考察

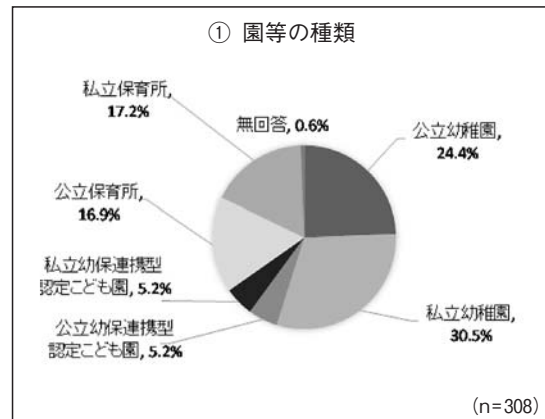
#### (1) 各項目について

##### A 園等について

##### ① 園等の種類

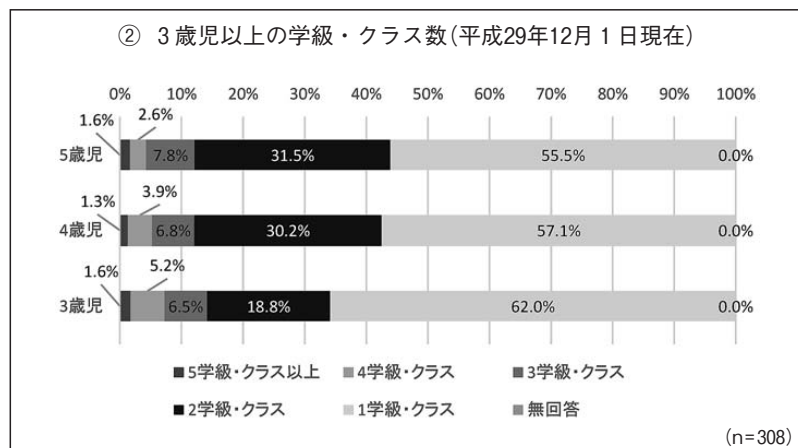
回答園のうち、幼稚園が54.9%（私立30.5%、公立24.4%）、保育所が34.1%（私立17.2%、公立16.9%）、幼保連携型認定こども園は10.4%（私立、公立ともに5.2%）となっている。

これらの割合を前提として、アンケート分析を進めたい。

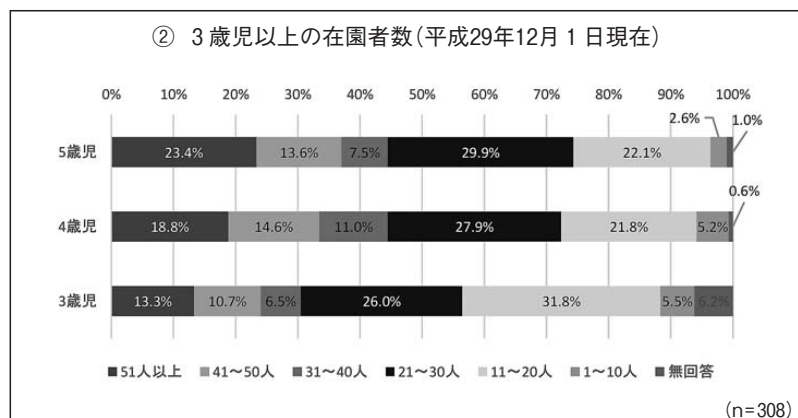


##### ② 3歳児以上の学級・クラス数

年齢別の学級・クラス数は、どの年齢も1学級が55%以上となっている。中でも3歳児クラスは、62.0%となっている。



3歳児は、11から20人が一番多く31.8%から、4歳児は21から30人が27.9%と一番多く、5歳児は、21から30人が一番多く29.9%となっている。

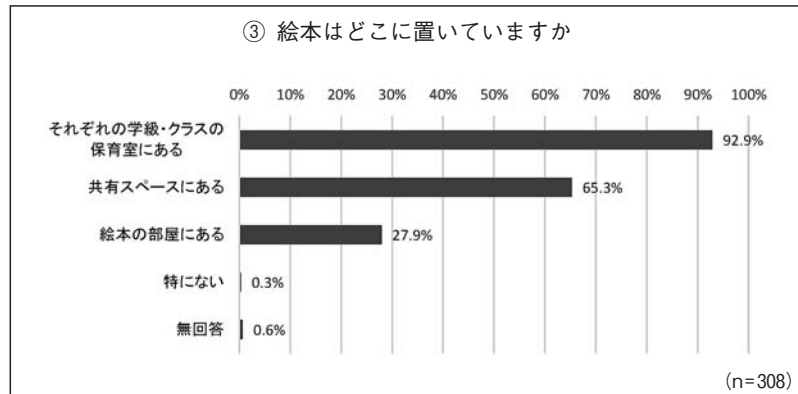


③ 絵本はどこに置いていますか。

このアンケートは複数回答可の箇所である。

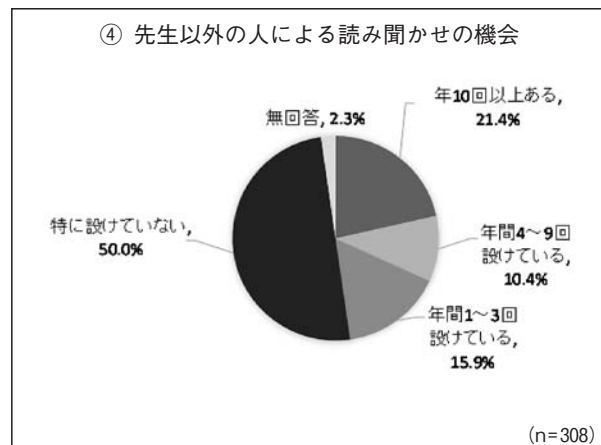
「それぞれの学級・クラスの保育室にある」ケースが92.9%となり、「共有スペースにある」が65.3%、「絵本の部屋にある」のが27.9%となっている。

基本的に保育室に絵本が設置されており、共有スペースもしくは絵本の部屋（特別に作られた絵本のコーナー）も併置されているものと考えられる。



④ 先生以外の人による読み聞かせの機会

50.0%が、先生以外の読み聞かせの機会を特に設けていないと回答している。年間10回以上の園は21.4%、年間1～3回が15.9%、年間4～9回が10.4%と続く。単純に考えれば、保育者以外の読み聞かせを設けているかどうかで区分すると、約半分ずつとなるわけだが、年間10回以上の園が21.4%にもものぼる。意図的に読み聞かせを行う外部の方を招聘するなどの計画を立てているものと推測することができる。

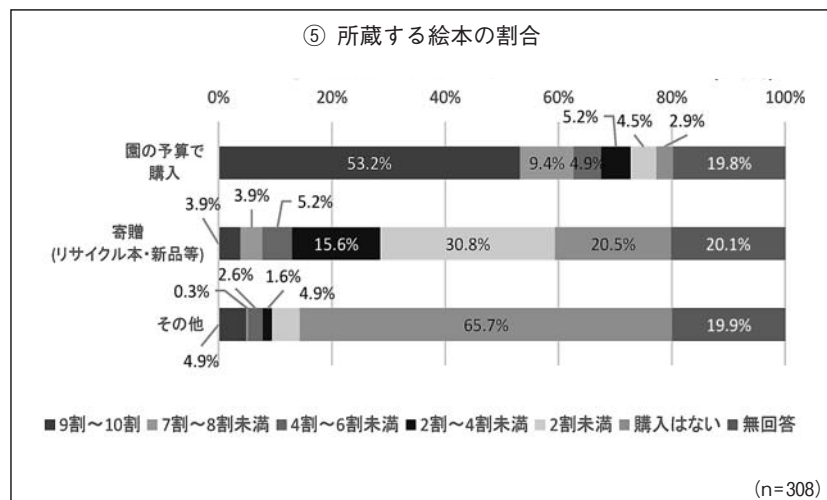


### ⑤ 所蔵する絵本の割合

絵本全体に対して、園の予算で購入している割合は、絵本のうちの9から10割が53.2%、次に7割から8割が9.4%と続くが、無回答も19.8%と少なくない。

寄贈（リサイクル本・新品等）は、2割未満が30.8%、2割から4割が15.6%となっている。園の予算で十分カバーできない部分を寄贈やリサイクルで補っていると考えられる。

自由記述から「その他」は、市や区の予算やリサイクル本、図書館での団体貸し出しなどを利用していることが分かった。



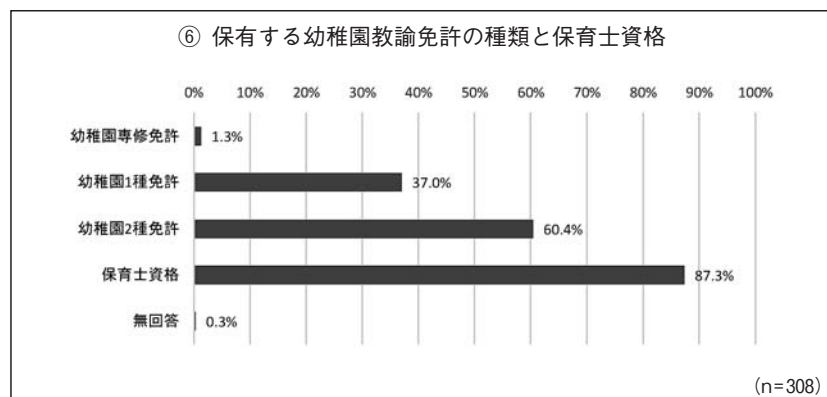
## B 記入した先生自身について

### ⑥ 保有する幼稚園教諭免許の種類と保育士資格

保育士資格が87.3%となっている。

幼稚園免許の種類で見ると、2種が60.4%、1種が37.0%、専修が1.3%となっている。

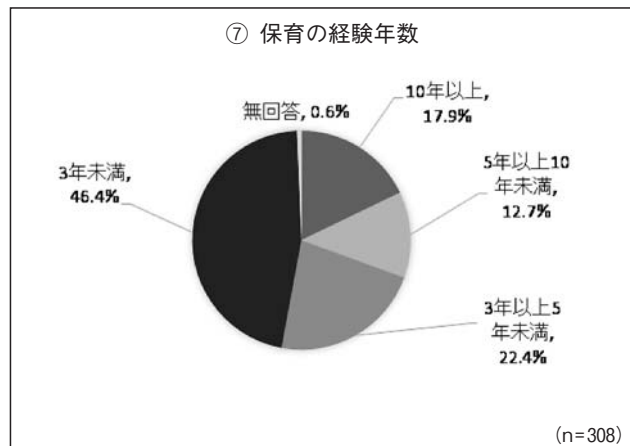
①で保育所からの回答が34.1%であったのに対し、保育士資格を所持している保育者が87.3%あることから、保育士資格と幼稚園教諭免許を併有している保育者が多いと考えられる。





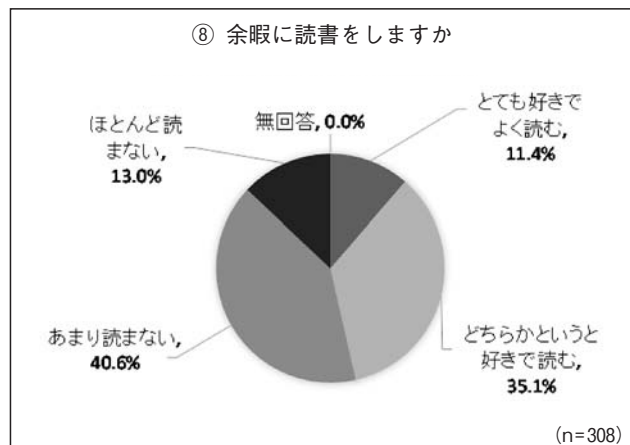
⑦ 保育の経験年数

3年未満が46.4%、3年以上5年未満が22.4%となり、68.8%が5年未満となっている。10年以上は、17.9%であるが、5年から10年未満は、12.7%となっており、5年から10年までの経験者がやや少なくなっている。



⑧ 余暇に読書をしますか。

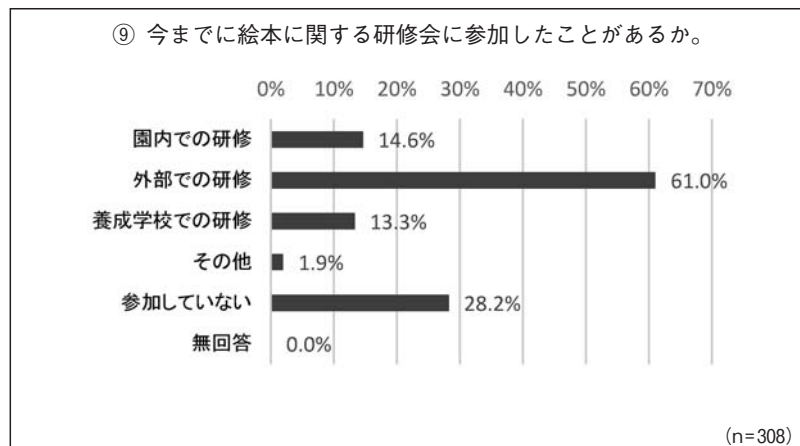
読書については、「あまり読まない」が40.6%、「ほとんど読まない」人が13.0%となり、合わせて53.6%となっている。これに対して、「どちらかという好きで読む」が35.1%、「とても好きでよく読む」が11.4%となり、合わせて46.5%となっている。



⑨ 今までに絵本に関する研修会に参加したことがあるか。

外部での研修が一番多く、61.0%、園内での研修が14.6%、養成学校での研修が13.3%となっており、特に参加してない保育者は、28.2%となっている。

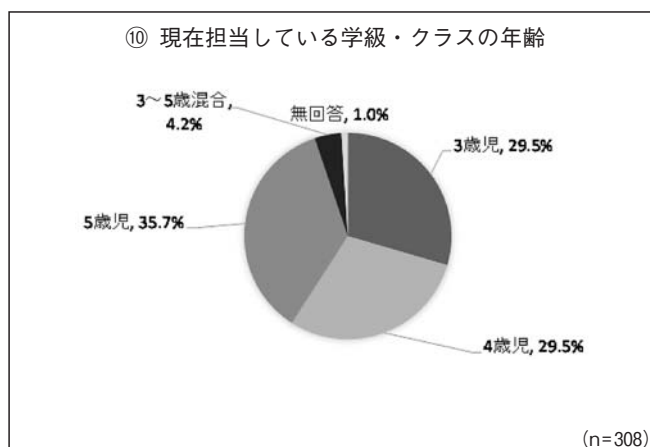
問いの⑧で本が好きと回答している割合を超えて、外部の研修には参加していることが分かった。



## C 担当している学級・クラスについて

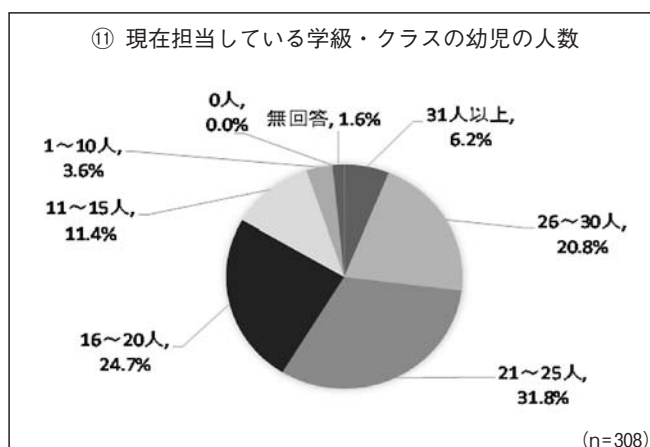
### ⑩ 現在担当している学級・クラスの年齢

設問では、5歳児、4歳児、3歳児、3から5歳児混合とカテゴリー化してあるが、3、4、5歳児学級・クラスがそれぞれ3割前後で差はなく、回答者は各学年に分散していることがわかった。



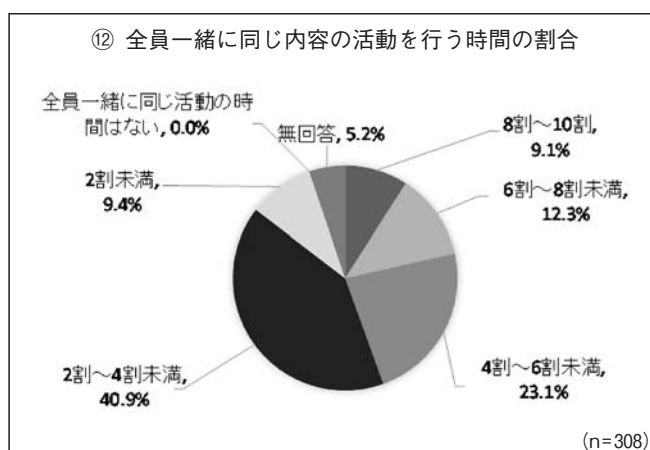
### ⑪ 現在担当している学級・クラスの幼児の人数

「21から25人」が31.8%、「16から20人」が24.7%、「26から30人」が20.8%だった。



### ⑫ 現在担当している学級・クラスでの1週間の教育時間等を、学級・クラスの幼児が全員で一緒に同じ内容の活動を行う時間とその他の時間に大まかに振分けた時、幼児が全員で一緒に同じ内容の活動を行う時間の割合（昼食や午睡、おやつは除く）

「2割から4割未満」が40.9%となり、次に「4割から6割未満」が23.1%となっている。これだけで64.0%の学級・クラスとなる。さらに「6割から8割未満」の12.3%を加えると、76.3%にまで上昇している。2割未満は9.4%あるが、どの施設においても一定時間の一斉活動があることがわかった。

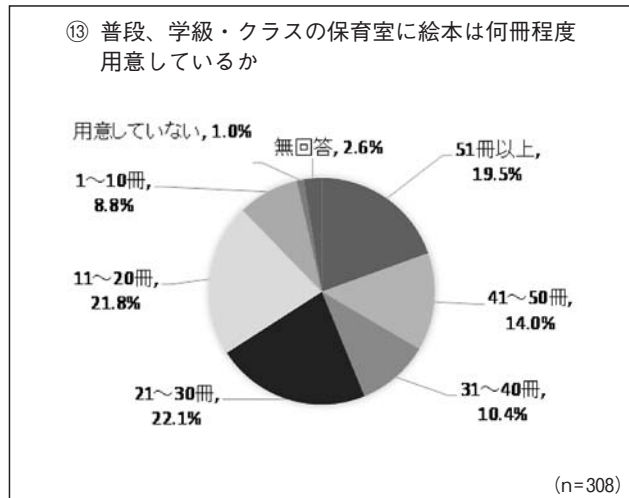


⑬ 普段、学級・クラスの保育室に絵本は何冊程度用意しているか。

「21冊から30冊」が22.1%、「11冊から20冊」が21.8%となり、「51冊以上」が19.5%と続く。これを合わせると、全体の63.4%となる。さらに「41冊から50冊」が14.0%となり、「31冊から40冊」が10.4%となる。10冊以下は、10%に満たない。これらのことから、大半の学級・クラスでは、絵本が20冊以上確保されていることがわかった。

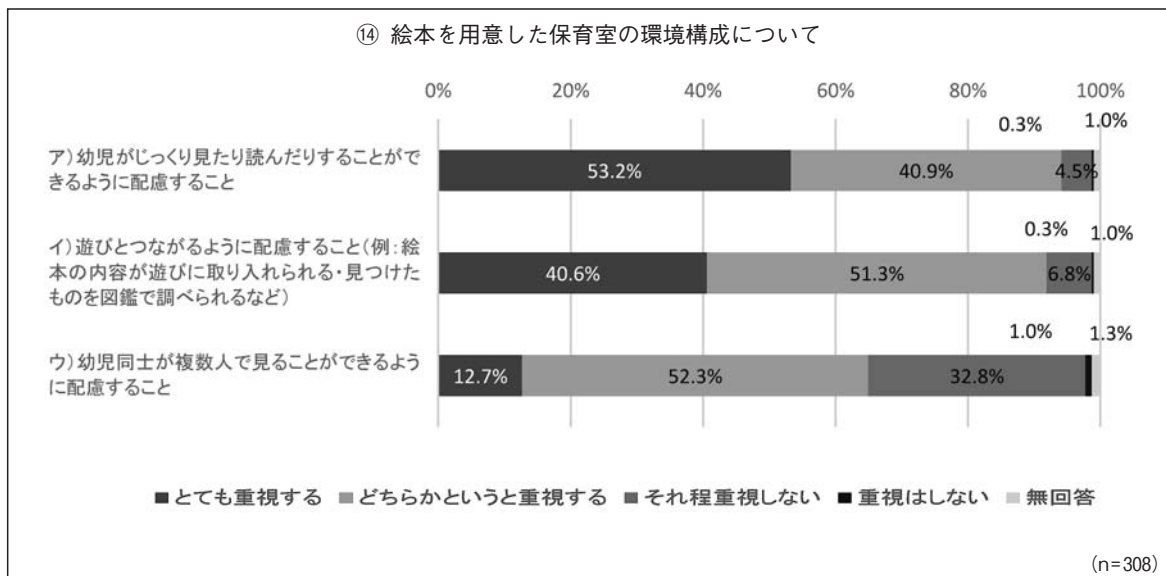
一人当たりの冊数は (⑬ ÷ ⑪) の平均で) 2.2冊であった。年齢別にみ

ると3歳2.3冊、4歳2.2冊、5歳2.1冊で年齢による差はなかった。幼児が自分の読みたい本を選ぶ際、多すぎても選ぶことが難しいと思われる。理想は一定の期間ごとに本を入れ替えて、適切な量を用意することであると考えられる。



⑭ 絵本を用意し保育室の環境構成を行う際に次のことをどれだけ重視するか。

これは3つの項目を立てて質問をした。



ア) の「幼児がじっくり見たり読んだりすることができるように配慮すること」では、「とても重視する」と「どちらかという重視する」が合わせて、94.1%と高い値となっている。

イ) の「遊びとつながるように配慮すること」では、同じく合わせて91.9%となっている。

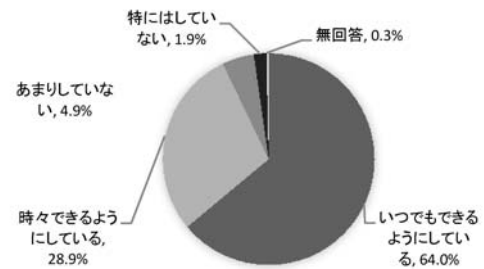
ウ) の「幼児同士が複数人で見るできるように配慮すること」では、それらの

回答が合わせて65%となっている。環境構成について配慮する場合、幼児同士が一つの絵本を同時に利用することを意識している割合は、他の項目と比較して低くなっている。

⑮ 読み聞かせした後の絵本は、幼児が自由に見たり読んだりすることができるようにしているか。

「いつでもできるようにしている」が64.0%となり、「時々できるようにしている」が28.9%となっている。合わせると92.9%となり、多くの保育者が、読み聞かせをしたあとに子どもに絵本を自由に触れさせていることがわかる。

⑮ 読み聞かせした後の絵本は自由に見たり読んだりできるか

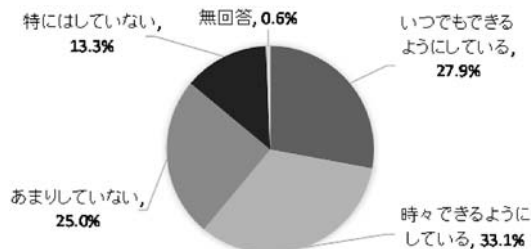


(n=308)

⑯ これから読み聞かせをしようとする予定の絵本は幼児が自由に見たり読んだりすることができるようにしているか。

「いつでもできるようにしている」が27.9%となり、「時々できるようにしている」が33.1%となり、合わせて61%となる。問いの⑮と比較してみると、絵本を幼児に自由に利用させることについては、読み聞かせをする「事前」よりも「事後」において意識されていることがわかる。

⑯ これから読み聞かせする予定の絵本は自由に見たり読んだりできるか

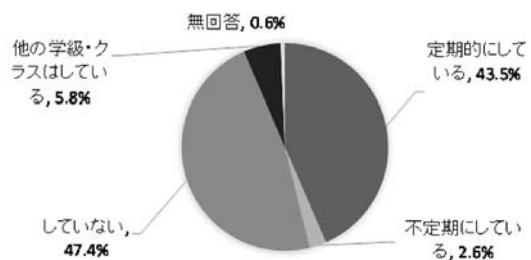


(n=308)

⑰ 現在担当している学級・クラスでは家庭へ絵本の貸し出しをしているか。

「定期的に行っている」が43.5%、「していない」が47.4%と、拮抗している。自由記述から、園の蔵書数や絵本の管理体制、保育形態などによる様々な事情によるが、絵

⑰ 担当している学級・クラスで家庭へ絵本の貸し出しをしているか



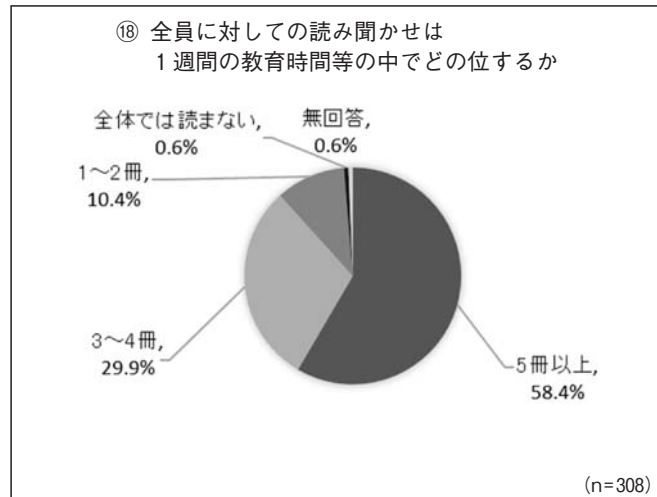
(n=308)

本の貸し出しによって家庭での親子の読書を勧めている園が半数あることがわかった。

#### D 担当している学級・クラスでの絵本に関する活動について

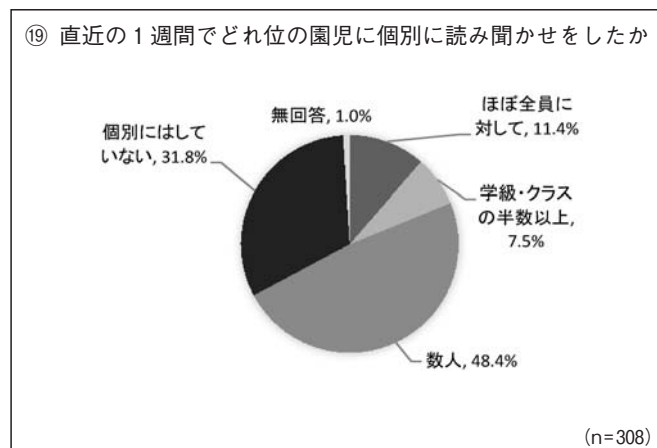
- ⑱ 保育者による、学級・クラス全員に対しての読み聞かせは1週間の教育時間等の中でどの位するか。

「5冊以上」が58.4%、「3から4冊」が29.9%となっており、合わせると88.3%になっている。これらのことからほぼ毎日読み聞かせているものと考えられる。「1から2冊」の場合は10.4%、「全体では読まない」が0.6%となっていて、多くの園で絵本を読み聞かせることが日常的に行われていることがわかった。

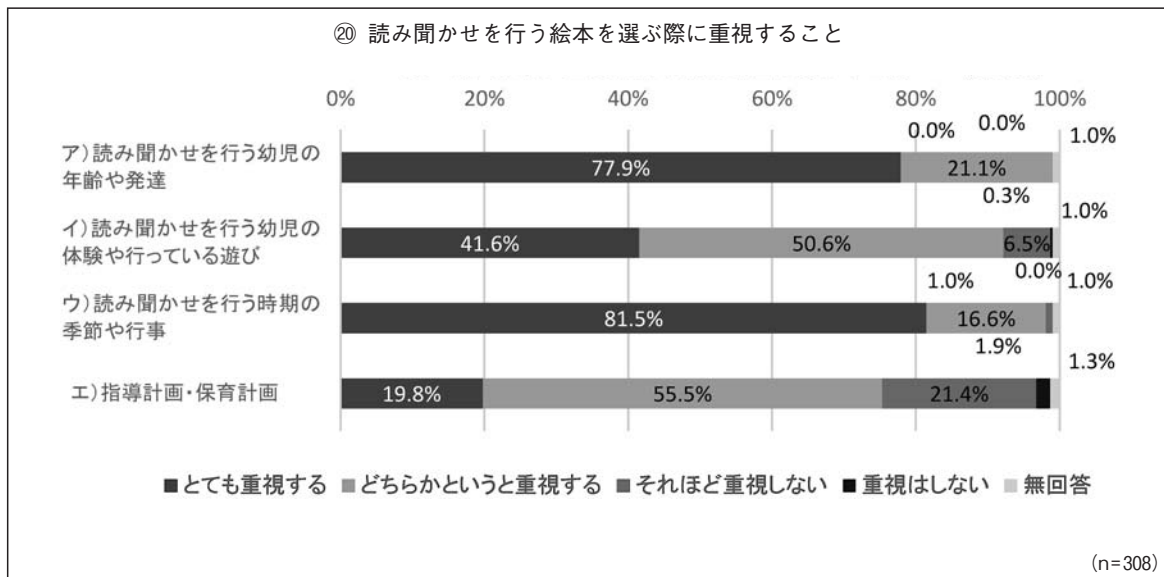


- ⑲ 直近の1週間で振り返って、先生が絵本の読み聞かせをした際に、学級・クラス全体ではなく、学級・クラスの中のどれ位の幼児に個別に（一人でも数人でも希望者を対象に）絵本の読み聞かせをしたか。

「数人」が48.4%となっており、次に「個別にはしていない」が31.8%となっている。合わせると80.2%となっている。「ほぼ全員に対して」は11.4%となっている。



⑳ 絵本の読み聞かせを行う本を選ぶ際に、次に示すことをどれだけ重視するか。



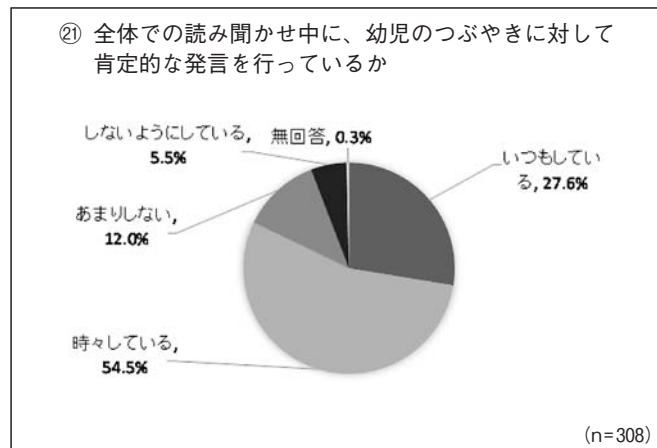
4つの項目を設定した。

- ア) 「読み聞かせを行う幼児の年齢や発達」は、「とても重視する」が77.9%、「どちらかという重視する」が21.1%となっている。合わせると、99%となる。幼児の年齢や発達を考慮せずに絵本を選択している保育者は、ほぼ皆無である。
- イ) 「読み聞かせを行う幼児の体験や行っている遊び」では、「どちらかという重視する」が50.6%と一番多く、「とても重視する」が41.6%となっている。合わせると、92.2%となる。逆に「それほど重視しない」も6.5%いることを考えると、全体としては重視されているものの、他の項目ほど当然視されたものではない面もあると考えられる。
- ウ) 「読み聞かせを行う時期の季節や行事」の項目では、「とても重視する」が81.5%、「どちらかという重視する」が16.6%となっている。合わせると、98.1%となる。最初の項目とほぼ同様で、季節や行事と絵本との関連は、保育者が特に強く意識していることがわかる。
- エ) 「指導計画・保育計画」については、「どちらかという重視する」が55.5%と一番多い。「とても重視する」は、19.8%にとどまっている。合わせると75.3%となっている。

⑳ 学級・クラス全体での読み聞かせ中に、幼児のつぶやきに対して肯定的な発言を行っているか。

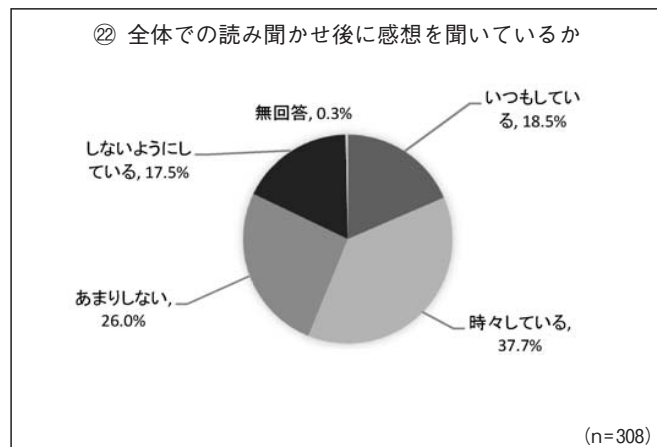
「いつもしている」が27.6%であるのに対して、「時々している」が54.5%になっている。また、「あまりしない」も12.0%となっている。

自由記述から、保育者が読み聞かせをしている間は、読み聞かせを中断する恐れがある「肯定的な発言」は敢えて控えているという理由が多かった。



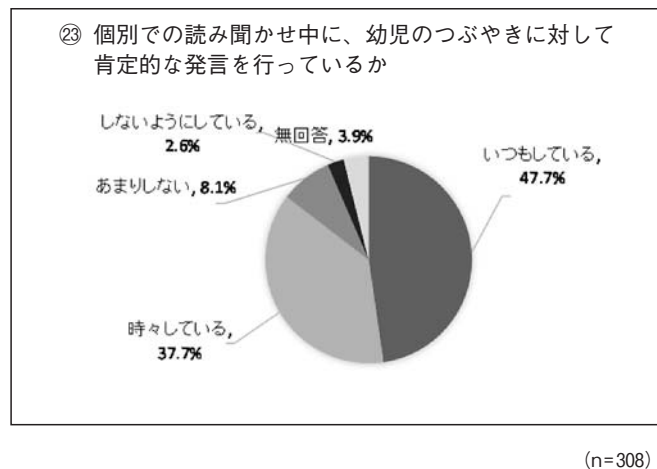
㉑ 学級・クラス全体での読み聞かせ後に、幼児に対して感想を聞いているか。

「いつもしている」が18.5%であるのに対して、「時々している」が33.7%になっている。全体での読み聞かせ後の感想については、保育者は必ずしも積極的に働きかけているわけではないことがわかった。また「あまりしない」は、26.0%となっている。



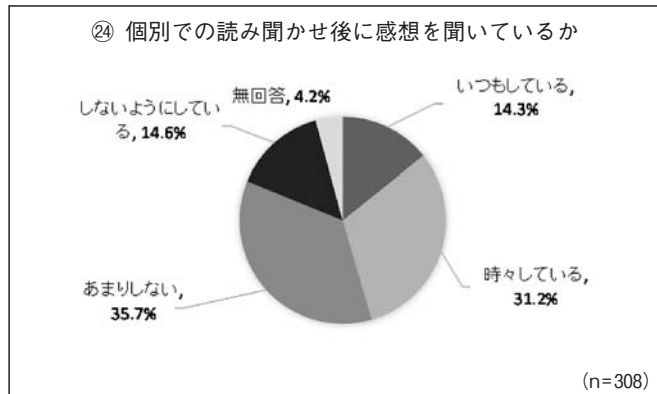
㉒ 個別の読み聞かせ中に、幼児のつぶやきに対して肯定的な発言を行っているか。

「いつもしている」が47.7%であり、「時々している」が37.7%になっている。合わせて85%になっている。前項目との比較をすると顕著であるが、保育者は、全体での読み聞かせよりも、個別での読み聞かせの方が、幼児のつぶやきに対して、肯定的な発言をしていることがわかる。



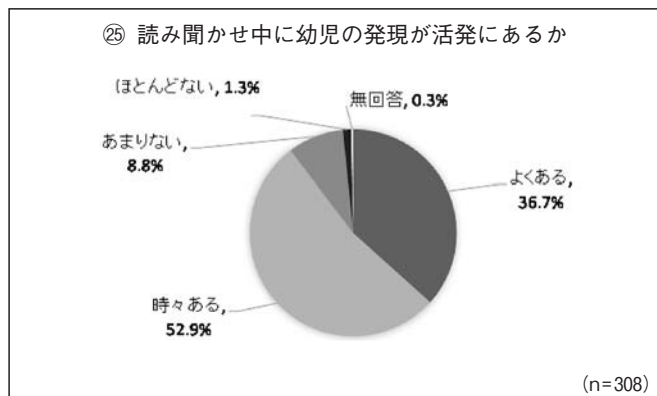
②④ 個別の読み聞かせ後に、幼児に対して感想を聞いているか。

「いつもしている」が14.3%であるのに対して、「時々している」が31.2%で、「あまりしない」が35.7%となっている。「しないようにしている」も14.6%となっている。感想を積極的に聞く方の立場が45.5%であるのに対して、感想は聞かないという立場も、50.3%となっている。



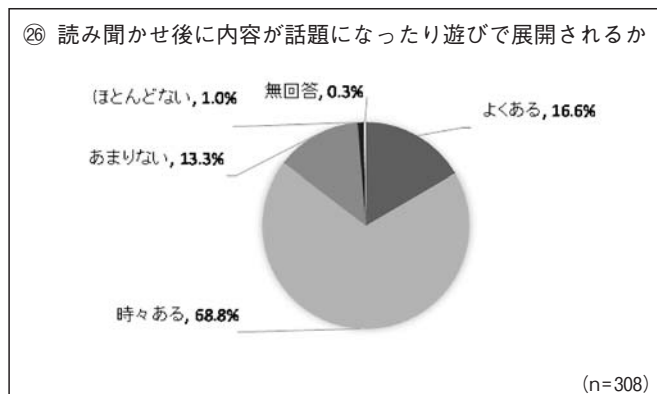
②⑤ 現在受け持っている学級・クラスでは、読み聞かせ中に、幼児の絵本に関する発話が活発にあるか。

「よくある」が36.7%となっており、「時々ある」が52.9%となっている。合わせると、89.6%となる。おおよそ読み聞かせ中に、幼児の発言が活発であることがはっきりした結果となっている。保育者の読み聞かせの技術もあるであろうが、絵本に対して幼児の関心の高さがうかがえる。



②⑥ 読み聞かせ後の活動で絵本の内容が話題になったり、遊びで展開されたりするか。

「よくある」が16.6%となっており、「時々ある」が68.8%である。合わせると、85.4%となる。絵本の読み聞かせが幼児に及ぼす影響は大きく、かつ保育者に目で見え、声で聞ける形で幼児たちが絵本から受けた刺激を、活発に自分の活動に反映させていく様子が見える。「あまりない」は13.3%で、「ほとんどない」が1.0%となっている。合わせて14.3%となっている。





(2) 各項目の関係について

表1 各項目の相関関係について

	⑦経年数	⑧本好き	⑭絵本環境			⑮後で	⑮前に	⑰貸出	⑱冊数	⑲個別	⑳読み聞かせの選書				㉑全体	㉒全体	㉓個別	㉔個別	㉕発話	㉖活動
			アじっくり	イ遊び	ウ集って						ア年齢	イ体験	ウ季節	エ計画	つぶやき	感想	つぶやき	感想		
⑦	1.000																			
⑧	-0.025	1.000																		
⑭ア	-0.031	0.112	1.000																	
⑭イ	-0.050	0.198	0.281	1.000																
⑭ウ	-0.108	0.038	0.190	0.171	1.000															
⑮	-0.031	0.053	0.112	0.194	0.034	1.000														
⑯	0.096	0.039	0.007	0.024	0.075	0.422**	1.000													
⑰	-0.060	0.049	-0.036	0.112	0.017	0.145	-0.062	1.000												
⑱	-0.162	0.054	0.135	0.047	0.039	-0.047	-0.037	0.040	1.000											
⑲	0.000	0.119	0.107	0.072	0.005	0.032	0.195	0.007	-0.014	1.000										
㉑ア	-0.051	0.055	0.202	0.111	0.039	0.179	0.067	-0.016	0.182	0.035	1.000									
㉑イ	-0.034	0.145	0.138	0.350**	0.193	0.249	0.091	0.040	0.167	0.046	0.274	1.000								
㉑ウ	0.041	0.007	0.108	0.122	0.075	0.063	-0.044	-0.070	0.126	-0.002	0.234	0.257	1.000							
㉑エ	-0.078	0.097	0.109	0.250	0.121	0.143	-0.049	0.049	0.057	-0.033	0.122	0.386**	0.212	1.000						
㉒	0.075	-0.093	-0.041	0.004	-0.023	-0.053	0.134	-0.059	-0.029	0.102	0.027	-0.018	-0.018	0.015	1.000					
㉓	0.082	-0.072	0.001	0.003	0.004	-0.058	0.087	-0.107	-0.056	0.172	0.056	0.024	-0.049	0.046	0.405**	1.000				
㉔	-0.044	-0.003	0.077	0.100	0.148	0.051	0.119	-0.045	0.024	0.089	0.117	0.193	0.091	0.030	0.415**	0.227	1.000			
㉕	0.064	-0.042	-0.001	0.034	0.054	-0.026	0.011	-0.043	0.021	0.086	0.092	0.036	0.053	0.018	0.250	0.7410**	0.317**	1.000		
㉖	0.026	0.031	-0.001	0.149	0.065	0.108	0.135	0.055	0.065	0.031	0.102	0.220	0.099	0.002	0.304**	0.023	0.273	0.065	1.000	
㉗	-0.038	0.217	0.197	0.300**	0.144	0.163	0.156	0.078	0.110	0.066	0.074	0.259	0.028	0.182	0.098	0.020	0.050	0.044	0.272	1.000

\*\*<0.01, \*<0.05

1 相関関係の見られた項目について

項目間の相関を見るため、各項目の選択肢を点数化（例えば、「いつもしている」= 4点から「しないようにしている」= 1点など）し、相関係数を算出した（表1）。その結果、有意な強い正の相関が見られたのは、「㉒学級・クラス全体での読み聞かせ後に幼児に対して感想を聞いているか」と「㉔個別での読み聞かせ後に幼児に感想を聞いているか」であった（ $r=0.741$ ,  $p<0.01$ ）。また、有意な弱い正の相関が見られたのは、「⑭イ）絵本を用意し保育室の環境構成を行う際、遊びとつながるよう配慮すること（例：絵本の内容が遊びに取り入れられる・見つけたものを図鑑で調べられるなど）」と「⑳イ）絵本の読み聞かせを行う本を選ぶ際に、読み聞かせを行う幼児の体験や行っている遊びを重視する」（ $r=0.351$ ,  $p<0.01$ ）、「⑭イ）絵本を用意し保育室の環境構成を行う際、遊びとつながるよう配慮すること（例：絵本の内容が遊びに取り入れられる・見つけたものを図鑑で調べられるなど）」と「㉖読み聞かせ後の活動で、絵本の内容が話題になったり、遊びで展開されたりする」（ $r=0.300$ ,  $p<0.01$ ）、「⑮読み聞かせした後の絵本は自由に見たり読んだりできるかどうか」と「⑯これから読み聞かせする予定の絵本は自由に見たり読んだりできるかどうか」（ $r=0.423$ ,  $p<0.01$ ）、「⑳イ）絵本の読み聞かせを行う本を選ぶ際に、読み聞かせを行う幼児の体験や行っている遊びを重視する」と「㉑エ）読み聞かせの本を選ぶ際、指導計画・保育計画を重視する」（ $r=0.386$ ,  $p<0.01$ ）、「㉑学級・クラス全体での読み聞かせ中に、幼児のつぶやきに対して肯定的な発言を行っている」と「㉒学級・クラス全体での読み聞かせ後に幼児に対して感想を聞いているか」（ $r=0.406$ ,  $p<0.01$ ）、「㉑学級・クラス全体での読み聞かせ中に、幼児のつぶやきに対して肯定的な発言を行っている」と「㉓個別の読み聞かせ中に、幼児のつぶやきに対して肯定的な発言をしている」（ $r=0.415$ ,  $p<0.01$ ）、「㉑学級・クラス全体での読み聞かせ中に、幼児のつぶやきに対して肯定的な発言を行っている」と「㉕学級・クラスでは、読み聞かせ中に幼児の絵本に関係した発話が活発にある」（ $r=0.305$ ,  $p<0.01$ ）、「㉓個別の読み聞かせ中に、幼児のつぶやきに対して肯定的な発言をしている」と「㉔個別の読み聞かせ後に幼児に、感想

を聞いているか」( $r=0.317$ ,  $p<0.01$ )の8つの関係であった。

このことから、読み聞かせ後、幼児に感想を聞く傾向の保育者は、学級・クラス全体でも個別でも聞く傾向にある。同じく、読み聞かせ中の幼児のつぶやきに対して肯定的な発言をする保育者は、学級・クラス全体、個別関係なく同じように肯定的に発言している。そして、感想を聞く保育者は、読み聞かせ中の幼児のつぶやきに肯定的に発言する傾向にある。よって、読み聞かせの最中、後に関わらず、幼児が発言することを重視する保育者とそうではない保育者がいる傾向が示唆された。

さらに、学級・クラスでの読み聞かせ中の幼児のつぶやきに対して、肯定的に保育者が発言を行うと、読み聞かせ中に幼児の発話が活発に行われる傾向が示された。これらのことから、絵本に刺激を受けて幼児が感想を述べたり、幼児が読み聞かせの最中に行ったつぶやきに肯定的な態度を示す保育者の場合、幼児の発話が増える傾向にあるということが示唆された。

また、幼児の体験や遊びを重視して読み聞かせの本を選ぶ保育者は、保育室の環境構成を遊びとつながるように配慮する傾向にあり、かつ、指導計画・保育計画を重視する傾向にあることが示された。このことから、本を読むことだけを他の活動と無関係に行うのではなく、計画性を持って環境構成を工夫し、読み聞かせがその時の幼児の活動とつながるように配慮する傾向がある保育者と、そうではない保育者がいる可能性があるため、指導計画・保育計画から熟慮し、読み聞かせを行うことが、園での幼児の活動を深めることにつながるものと思われる。

多様な対話を育むという観点から、a「絵本の環境構成で、幼児がじっくり見たり読んだりできるよう配慮すること」、b「絵本の環境構成で遊びとつながるよう配慮すること」、c「読み聞かせ中に幼児の絵本に関する発話が活発になること」、d「読み聞かせ後の活動で、絵本の内容が話題になったり、遊びで展開されたりする」という4つに注目し、それがどのような要因の影響を受けているのかを検討するため、それぞれ重回帰分析を行った。

#### a) 絵本の環境構成で、幼児がじっくり見たり読んだりできるよう配慮すること

まず、a「絵本の環境構成で、幼児がじっくり見たり読んだりできるよう配慮すること」に関しては、「経験年数」「余暇に読書をすることが好きか」「読み聞かせ後の絵本は幼児が自由に見たり読んだりできる」「これから読み聞かせをしようとする予定の絵本は幼児が自由に見たり読んだりできる」「学級・クラス全体への読み聞かせは1週間の教育時間などの中でどのくらいか」「直近1週間を振り返って学級・クラスの中のどれくらいの幼児に個別に絵本の読み聞かせを行なったか」「読み聞かせの本を選ぶ際、幼児の年齢や発達を重視する」「絵本の読み聞かせを行う本を選ぶ際、幼児の体験や行っている遊びを重視する」「絵本の読み聞かせの本を選ぶ際、読み聞かせを行う季節や行事を重視する」「読み聞かせの本を選ぶ際、指導計画・保育計画を重視する」「学級・クラス全体での読み聞かせ中に、幼児のつぶやき対して

肯定的な発言を行っている」「学級・クラス全体での読み聞かせ後に幼児に対して感想を聞いている」「個別の読み聞かせ中に、幼児のつぶやきに対して肯定的な発言を行っている」「個別の読み聞かせ後に、幼児に対して感想を聞いている」「学級・クラスでは、読み聞かせ中に幼児の絵本に関係した発話が活発にある」「読み聞かせの後の活動で、絵本の内容が話題になったり遊びで展開されたりするか」の16項目を説明変数とした（表2）。

表2 絵本の環境構成で幼児がじっくり見たり読んだりできるよう配慮することの規定要因

項 目	係 数	有意確率	
(定数)	0.4784	0.0738	
経験年数	0.0121	0.6938	
余暇に読書をするのが好きか	0.0296	0.4792	
読み聞かせした後の絵本は幼児が自由に見たり読んだりできる	0.0768	0.2022	
これから読み聞かせをしようとする予定の絵本は幼児が自由に見たり読んだりできる	-0.0473	0.2364	
保育者によるクラス全体への読み聞かせは1週間の教育時間等の中でどのくらいか	0.0807	0.1258	
直近の1週間を振り返って学級・クラスの中のどれくらいの幼児に個別に絵本の読み聞かせを行ったか	0.0630	0.1097	
絵本の読み聞かせを行う本を選ぶ際、幼児の年齢や発達を重視する	0.2139	0.0178	*
絵本の読み聞かせを行う本を選ぶ際、幼児の体験や行っている遊びを重視する	-0.0178	0.7950	
絵本の読み聞かせを行う本を選ぶ際、読み聞かせを行う季節や行事を重視する	0.0709	0.4275	
絵本の読み聞かせを行う本を選ぶ際、指導計画・保育計画を重視する	0.0255	0.6431	
学級・クラス全体での読み聞かせ中に、幼児のつぶやきに対して肯定的な発言を行っている	-0.0613	0.2641	
学級・クラス全体での読み聞かせ後に、幼児に対して感想を聞いている	0.0454	0.4408	
個別の読み聞かせ中に、幼児のつぶやきに対して肯定的な発言を行っている	0.0897	0.1013	
個別の読み聞かせ後に、幼児に対して感想を聞いている	-0.0634	0.2862	
現在受け持っている学級・クラスでは、読み聞かせ中に、幼児の絵本に関係した発話が活発にあるか	-0.0705	0.2343	
読み聞かせの後の活動で、絵本の内容が話題になったり、遊びで展開されたりするか	0.1875	0.0044	**

N=283 R2=.068 (p:有意水準) \*\*p<0.01、\*p<0.05

その結果、寄与率は6.8% ( $R^2=0.068$ ) であり、「絵本の読み聞かせを行う本を選ぶ際、幼児の年齢や発達を重視する」( $\beta=0.2139$ ,  $p<0.5$ ) と「読み聞かせの後の活動で、絵本の内容が話題になったり、遊びで展開されたりするか」( $\beta=0.1875$ ,  $p<0.01$ ) の2項目が有意な偏回帰係数を示した。このことから、幼児がじっくり絵本を読めるような環境にしようと配慮している保育者は、幼児の年齢や発達を重視して読み聞かせの本を選ぶ傾向にあり、クラスにおいて絵本の内容が話題になったり、遊びで絵本の内容を展開する傾向があると、じっくり読める環境づくりに配慮していることが示唆された。

## b) 絵本の環境構成で遊びとつながるよう配慮すること

次にb「絵本の環境構成で遊びとつながるよう配慮すること」に関しては、前述の16項目を説明変数とし、寄与率は16.4% ( $R^2=0.164$ ) であった(表3)。

表3 絵本の環境構成で遊びとつながるよう配慮することの規定要因

項 目	係 数	有意確率	
(定数)	0.3333	0.1962	
経験年数	-0.0089	0.7624	
余暇に読書をするのが好きか	0.0757	0.0615	
読み聞かせした後の絵本は幼児が自由に見たり読んだりできる	0.1069	0.0661	
これから読み聞かせをしようとする予定の絵本は幼児が自由に見たり読んだりできる	-0.0529	0.1706	
保育者によるクラス全体への読み聞かせは1週間の教育時間等の中でどのくらいか	-0.0239	0.6372	
直近の1週間を振り返って学級・クラスの中のどれくらいの幼児に個別に絵本の読み聞かせを行ったか	0.0344	0.3654	
絵本の読み聞かせを行う本を選ぶ際、幼児の年齢や発達を重視する	-0.0088	0.9192	
絵本の読み聞かせを行う本を選ぶ際、幼児の体験や行っている遊びを重視する	0.2043	0.0022	**
絵本の読み聞かせを行う本を選ぶ際、読み聞かせを行う季節や行事を重視する	0.0383	0.6567	
絵本の読み聞かせを行う本を選ぶ際、指導計画・保育計画を重視する	0.0873	0.1005	
学級・クラス全体での読み聞かせ中に、幼児のつぶやきに対して肯定的な発言を行っている	-0.0125	0.8134	
学級・クラス全体での読み聞かせ後に、幼児に対して感想を聞いている	-0.0087	0.8786	
個別の読み聞かせ中に、幼児のつぶやきに対して肯定的な発言を行っている	0.0308	0.5593	
個別の読み聞かせ後に、幼児に対して感想を聞いている	0.0138	0.8100	
現在受け持っている学級・クラスでは、読み聞かせ中に、幼児の絵本に関係した発話が活発にあるか	0.0376	0.5100	
読み聞かせの後の活動で、絵本の内容が話題になったり、遊びで展開されたりするか	0.1935	0.0023	**

N=283 R2=.164 (p:有意水準) \*\* $p<0.01$ 、\* $p<0.05$

偏回帰係数は「絵本の読み聞かせを行う本を選ぶ際、幼児の体験や行なっている遊びを重視する」( $\beta=0.2043$ ,  $p<0.01$ )と「読み聞かせの後の活動で、絵本の内容が話題になったり、遊びで展開されたりするか」( $\beta=0.1935$ ,  $p<0.01$ )の2項目が有意であった。よって、遊びとつながるように環境構成を配慮する保育者は、読み聞かせの本を選ぶところから、現在体験していることや遊びを考えて選ぶようにしていることが伺える。また、幼児が絵本の内容を話題にしたり、遊びで展開されるという傾向がある場合、環境構成を遊びとつながるように保育者が配慮する傾向にあることが示唆された。

### c) 読み聞かせ中に幼児の絵本に関する発話が活発になること

c「読み聞かせ中に幼児の絵本に関する発話が活発になること」に関しては、「経験年数」「余暇に読書をするのが好きか」「読み聞かせ後の絵本は幼児が自由に見たり読んだりできる」「これから読み聞かせをしようとする予定の絵本は幼児が自由に見たり読んだりできる」「学級・クラスでは家庭へ絵本の貸し出しはしているか」「クラス全体への読み聞かせは1週間の教育時間等の中でどのくらいか」「直近1週間を振り返って学級・クラスの中のどれくらいの幼児に個別に絵本の読み聞かせを行なったか」「読み聞かせの本を選ぶ際、幼児の年齢や発達を重視する」「絵本の読み聞かせを行う本を選ぶ際、幼児の体験や行なっている遊びを重視する」「絵本の読み聞かせの本を選ぶ際、読み聞かせを行う季節や行事を重視する」「読み聞かせの本を選ぶ際、指導計画・保育計画を重視する」「学級・クラス全体での読み聞かせ中に、幼児のつぶやきに対して肯定的な発言を行っている」「学級・クラス全体での読み聞かせ後に幼児に対して感想を聞いている」「個別の読み聞かせ中に、幼児のつぶやきに対して肯定的な発言を行っている」「個別の読み聞かせ後に、幼児に対して感想を聞いている」「読み聞かせの後の活動で、絵本の内容が話題になったり、遊びで展開されたりするか」の16項目を説明変数とした(表4)。

表4 現在受け持っている学級・クラスでは、読み聞かせ中に、幼児の絵本に関する発話が活発にあることの規定要因

項 目	係 数	有意確率
(定数)	0.4579	0.1076
経験年数	0.0134	0.6731
余暇に読書をするのが好きか	-0.0097	0.8231
読み聞かせした後の絵本は幼児が自由に見たり読んだりできる	0.0223	0.7243
これから読み聞かせをしようとする予定の絵本は幼児が自由に見たり読んだりできる	0.0258	0.5369
現在担当している学級・クラスでは家庭へ絵本の貸し出しをしているか	0.0317	0.3625
保育者による学級・クラス全体への読み聞かせは1週間の教育時間等の中でどのくらいか	0.0103	0.8502

直近の1週間を振り返って学級・クラスの中のどれくらいの幼児に個別に絵本の読み聞かせを行ったか	-0.0143	0.7263	
絵本の読み聞かせを行う本を選ぶ際、幼児の年齢や発達を重視する	0.0296	0.7500	
絵本の読み聞かせを行う本を選ぶ際、幼児の体験や行っている遊びを重視する	0.1791	0.0112	*
絵本の読み聞かせを行う本を選ぶ際、読み聞かせを行う季節や行事を重視する	0.0888	0.3389	
絵本の読み聞かせを行う本を選ぶ際、指導計画・保育計画を重視する	-0.1095	0.0536	
学級・クラス全体での読み聞かせ中に、幼児のつぶやきに対して肯定的な発言を行っている	0.2391	0.0000	**
学級・クラス全体での読み聞かせ後に、幼児に対して感想を聞いている	-0.1088	0.0747	
個別の読み聞かせ中に、幼児のつぶやきに対して肯定的な発言を行っている	0.1090	0.0534	
個別の読み聞かせ後に、幼児に対して感想を聞いている	0.0414	0.5018	
読み聞かせの後の活動で、絵本の内容が話題になったり、遊びで展開されたりするか	0.2304	0.0006	**

N = 283 R<sup>2</sup> = .185 (p : 有意水準) \*\*p < 0.01、\*p < 0.05

16項目を説明変数として分析を行った結果、寄与率18.5% (R<sup>2</sup> = 0.185) で、「絵本の読み聞かせを行う本を選ぶ際、幼児の体験や行っている遊びを重視する」( $\beta = 0.1791$ ,  $p < 0.05$ )、「学級・クラス全体での読み聞かせ中に、幼児のつぶやきに対して肯定的な発言を行っている」( $\beta = 0.2391$ ,  $p < 0.01$ )、「読み聞かせの後の活動で絵本の内容が話題になったり、遊びで展開されたりするか」( $\beta = 0.2304$ ,  $p < 0.01$ )の偏回帰係数が有意であった。このことから、読み聞かせ中に幼児の絵本に関する発話が活発になることには、絵本を選ぶ際に保育者が幼児の体験や行っている遊びを重視し、関心を持ちやすくすること、読み聞かせ中に幼児のつぶやきに対して肯定的な発言をすることで、幼児が言葉を発しやすい雰囲気づくりを行うことが影響することが示唆された。また、読み聞かせ後に絵本の内容が話題になったり、遊びで展開される日常があると読み聞かせ中に幼児の発話が活発になる傾向が示された。

#### d) 読み聞かせ後の活動で、絵本の内容が話題になったり、遊びで展開されたりする

d「読み聞かせ後の活動で、絵本の内容が話題になったり、遊びで展開されたりする」に関して、「経験年数」「余暇に読書をするのが好きか」「読み聞かせ後の絵本は幼児が自由に見たり読んだりできる」「これから読み聞かせをしようとする予定の絵本は幼児が自由に見たり読んだりできる」「学級・クラスでは家庭へ絵本の貸し出しはしているか」「クラス全体への読み聞かせは1週間の教育時間等の中でどのくらいか」「直近1週間を振り返って学級・クラスの中のどれくらいの幼児に個別に絵本の読み聞かせを行なったか」「読み聞かせの本を選ぶ際、幼児の年齢や発達を重視する」「絵本の読み聞かせを行う本を選ぶ際、幼児の体験や行っている遊びを重視する」「絵本の読み聞かせの本を選ぶ際、読み聞かせを行う季節や行事を重視する」「読み聞かせの本を選ぶ際、指導計画・保育計画を重視する」「学級・クラス

全体での読み聞かせ中に、幼児のつぶやきに対して肯定的な発言を行っている」「学級・クラス全体での読み聞かせ後に幼児に対して感想を聞いている」「個別の読み聞かせ中に、幼児のつぶやきに対して肯定的な発言を行っている」「個別の読み聞かせ後に、幼児に対して感想を聞いている」「読み聞かせ中に幼児の絵本に関する発話が活発にある」の分析で用いた16項目を説明変数として回帰分析を行い、寄与率は17.3% ( $R^2=0.173$ ) であった (表5)。

表5 読み聞かせ後の活動で、絵本の内容が話題になったり、遊びで展開されたりする規定要因

項 目	係 数	有意確率	
(定数)	0.6295	0.0096	
経験年数	-0.0138	0.6244	
余暇に読書をするのが好きか	0.1005	0.0088	**
絵本の環境構成で遊びとつながるよう配慮すること	0.1763	0.0025	**
読み聞かせした後の絵本は幼児が自由に見たり読んだりできる	0.0234	0.6789	
これから読み聞かせをしようとする予定の絵本は幼児が自由に見たり読んだりできる	0.0658	0.0728	
現在担当している学級・クラスでは家庭へ絵本の貸し出しをしているか	0.0129	0.6782	
保育者による学級・クラス全体への読み聞かせは1週間の教育時間等の中でどのくらいか	0.0582	0.2309	
直近の1週間を振り返って学級・クラスの中のどれくらいの幼児に個別に絵本の読み聞かせを行ったか	-0.0307	0.7115	
絵本の読み聞かせを行う本を選ぶ際、幼児の年齢や発達を重視する	0.0975	0.1297	
絵本の読み聞かせを行う本を選ぶ際、幼児の体験や行っている遊びを重視する	-0.0770	0.3529	
絵本の読み聞かせを行う本を選ぶ際、読み聞かせを行う季節や行事を重視する	0.0778	0.1255	
絵本の読み聞かせを行う本を選ぶ際、指導計画・保育計画を重視する	0.0638	0.2076	
学級・クラス全体での読み聞かせ中に、幼児のつぶやきに対して肯定的な発言を行っている	-0.0338	0.5322	
学級・クラス全体での読み聞かせ後に、幼児に対して感想を聞いている	-0.0808	0.1090	
個別の読み聞かせ中に、幼児のつぶやきに対して肯定的な発言を行っている	0.0533	0.3304	
個別の読み聞かせ後に、幼児に対して感想を聞いている	0.1770	0.0011	
現在受け持っている学級・クラスでは、読み聞かせ中に、幼児の絵本に関する発話が活発にある	0.6295	0.0096	**

N=283 R2=.173 (p:有意水準) \*\*p<0.01、\*p<0.05

偏回帰係数は、「余暇に読書をするのが好きか」( $\beta=0.1005$ ,  $p<0.01$ )、「絵本の環境構成で遊びとつながるよう配慮すること」( $\beta=0.1763$ ,  $p<0.01$ )、「現在受け持っている学級・クラスでは、読み聞かせ中に、幼児の絵本に関する発話が活発にあるか」( $\beta=0.6295$ ,  $p<0.01$ )の3項目が有意であった。よって、読み聞かせ後に、絵本の内容が話題になったり、遊びが展開されたりすることに、保育者が普段余暇に読書をするのが好きかどうかと

いう保育者の本に対する嗜好性、絵本の環境構成で遊びとつながるように配慮するという保育者の保育への姿勢が影響していることが示唆された。また、読み聞かせ中に幼児が絵本に関する発話を活発に行っていることが、読み聞かせ後に内容を話題にしたり、遊びが展開されるという活動に影響することが示唆されたことから、多様な対話という観点から考えると、読み聞かせ中に幼児の発話があり、読み聞かせ後も内容を話題にしたり、遊びが展開されることで、さらなる対話が生まれると解釈することが可能である。

## 2 インタビュー調査

### 1) 調査の概要

#### ① 目的

絵本を日々の教育活動に積極的に取り入れた活動を展開している幼稚園、保育所、小学校等に対して現地調査（インタビュー）を実施し実態を明らかにする。

#### ② 現地調査実施

表6 インタビュー調査

施設	調査実施日	対象者
A 保育所	平成29年10月16日(月)	園長、5歳児担任（2名）
B 幼稚園	平成30年1月29日(月)	園長、4歳児担任、5歳児担任
C 幼稚園	平成29年9月27日(水)	園長
D 小学校	平成29年9月26日(火)	校長、1学年担任、3・4学年複式学級担任

#### ③ 質問項目

- 絵本を保育の中でどのように活用していますか。
- 子どもが絵本に親しみやすくなるために工夫していることは何ですか。
- 絵本を使った具体的活動を教えてください。
- 絵本を読み聞かせるときの選書のポイントは何ですか。
- 絵本をきっかけに子どもの活動に変化がみられたことがありますか。あれば、具体的内容を教えてください。
- 絵本コーナー（絵本を読むための空間）の環境構成において、工夫していることは何ですか。
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」がありますが、絵本の活動を通してそういう姿が育っているエピソードがあれば教えてください。また、それぞれ具体的な絵本の影響があるならば、絵本名を教えてください。
- 絵本を教育・保育において活用するメリットについてお聞かせください。
- 絵本のどのような活動が小学校教育へとつながっていくと思いますか。具体的にお話ください。



## 2) 結果と考察

半構造化面接によって得られた情報を分析するに当たり、グラウンデッド・セオリーや現象学的に行なわれた研究方法を参考に、対象者が語る言葉からその現実を理解することを心掛けた。具体的には、まず、質問に対して回答したものの録音したものを調査者自身で逐語的に起こし、活字化した。話された内容を意味単位ごとに区切り、類似する概念を持つもの同士の集まりをカテゴリーとし、もう少し大きな単位でカテゴリー同士をまとめることができる場合にはそれをテーマとしてまとめた。そこから次の3テーマに分類することができた。①絵本を用いた活動や環境の工夫、②指導計画との関連、③小学校教育の連続性を踏まえた指導

表7 インタビュー調査の分類表（抜粋）

絵本を用いた活動や環境の工夫	指導計画との関連	小学校教育との連続性を踏まえた指導について
<ul style="list-style-type: none"> <li>○自由時間に本を広げている子は多いです。外で遊んでいても、虫を見つけて走って図鑑を探します。多分一日の中で絵本を手にしないうちは数人だと思いうくらい、自然に子供たちの方から本に行く、本に触れることが多くなりました。本当はホールにひとつ、図書館で借りてきた本があって団体貸し出しで何十冊か借りてきて置いてあるんですね。子供にとって、本の場所が各クラスにあったり、ばらばらだとあれだろうって、ホールに何か所にしようって3・4・5歳で決めたんです。ただ、やっぱりホールよりも部屋ですぐ調べたいというのが多いので、部屋に置いて、プラス図書館で貸していただいている季節の本などはホールに、ということで、4・5歳はホールで順番やってるんですけど、すごく本を読む子が増えました。</li> <li>○遊びのイメージを広げたり、科学絵本で身の回りの自然に関心をもったり、理解を深めたりできます。遊びの中で提示したり、その場で読んだり、子供が気付いてもって来て見ながら遊びに使うものを作ったりしています。降園時に読むと、学級全体でイメージを共有することができます。</li> <li>○わんぱく団シリーズなど遊びにつながる本は使います。夏休み明け、キャンプごっこをしていて、(経験していないので)わからない子とイメージをすり合わせるのに、「はじめてのキャンプ」を読みました。上に張った布を見て「テントってこれね」とか「バーベキューするんだね」とか。</li> <li>○玄関に絵本コーナーがあります。市の図書館から借りてきて定期的に入れ替えて、貸し出しを行っているのですが、送り迎えのある子は借りやすい。バス送迎の子は借りづらい、という事情があります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○入園後、4、5月は短時間で読めるもの、絵がはっきりしているもの、子供が参加できるもの、身近なものなどを選んで読み、絵本を通して幼稚園って楽しいなと思えるようにします。入園したばかりの時は経験が子供によって違うので、どの子も関心をもてるように配慮します。徐々に少し長くなっても、繰り返しのものなど、楽しめるものを選びます。秋になると物語を楽しめるようにして、3学期には「さるるる」とか、言葉遊び絵本や文字に関心が持てるようなものを選びます。年長では「ロボットカミイ」や「スーホの白い馬」のような心に訴えかけるものや、昔話などを読んでいきます。修了に向けて、文字が多く、言葉を聞いて想像できるようなものを読みます。</li> <li>○長い話だと理解しづら</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年長組で、1学期の後半に「いやいやえん」は絵が少なくて聞けなかったの、2学期の最初に「おいしいのぼうけん」を4、5回に分けて、挿絵を印刷して見せながら進めました。この頃は、長いお話が聞けるようになってきました。これからは絵の少ない本や感情体験のできるものを読みたいと思っています。</li> <li>○絵本の読み聞かせを楽しめるように、本は選びます。修了に向けて、「言葉」を聞いて、そこから想像できるようにしていきたい。そのために、3学期には少し長い本も読んでいます。</li> <li>○小学校では、本を読むために、聞くことを大切にしています。人の話を聞いて考える習慣をつけたい。先生の読み聞かせも継続して行っていて、教室にある本を読んでいます。1</li> </ul>

- このところ意図的に図書館に足を運んでいる。運動会が終わって1ヶ月ぶりくらいに「どこに行きたい？」と聞いたら「図書館」と言うんです。今まで足を運んで来て無駄じゃなかったなど。子供たちの中に浸透してきたなど。
  - 全員が好きな本を1冊選んで、借りてきました。園の本は少ないので、子供と一緒に月1回図書館に行って好きな本を選びます。抜いた本は元の場所に戻すということを約束してあとは自由に行っています。
  - 図書館の人とシルバーのNPOが来てくれて、月2回読み聞かせをやっています。よく聞いていますねと、よく言われます。担任は客観的に見られます。自分が読んでいる時より子供の様子がよく見えるし、自分も勉強になります。図書館の人は上手です。シルバーのおじいちゃん、おばあちゃんが老眼鏡をかけて指なめて、カタカナなんか出てくると上手じゃないけど、優しい雰囲気伝わってくるのか、子供たちは大好きです。
  - 月に2回保護者や地域の方による読み聞かせを行っています。内容はお任せですが、季節にあったものを選んでくれています。繰り返し経験するうちに聞くことが上手になってきました。読み聞かせは活動的な子がじっと座って集中して聞く機会になると感じます。
  - 年間を通して地域や保護者の読み聞かせを行っています。毎月地域の方が読み聞かせに来てくれています。保護者は2か月に1回、1度の3、4人くらい来てくれるのでグループ分けして聞きに行きます。お母さんたちにも子供たちの様子を見てもらう環境を作っています。成果としては、お母さんが本を選ぶので、絵本に関心を持つようになりました。
  - 地域で読み聞かせ活動をしている方の読み聞かせをしている場面見て、読み方や選書で「子供ってこんなに絵本の世界に入れるんだ」って思うし、違う人が読むと集中します。お母さんの読み聞かせも子供は嬉しいし、おうちで何を読むか子供と一緒に読む本を決めたり、おうちで練習して子供に読み聞かせをして来る方もいます。
  - 理科読は、ファンタジーの世界で遊べない子供でも本当の世界で知識を増やしたい子にとっては知識欲を満たす満足がある。体験した理科読から自分に必要な本を選んでいる。本の楽しみは様々で、いろいろな読み方があって良いと思う。自分が読んで面白かった本を持ってきて、みんなに勧めている子がいた。教室にマイセレクト文庫のコーナーを作ったら、何冊か持ってきて友達に勧めていた。理科読をきっかけにして様々なジャンルの本を自分から見つけて楽しむ姿が育っている。
  - 読み聞かせの時、黒板のカーテンを閉めて集中できるようにしています。特別に支援を要する子どもが落ち着いて絵本に向かえるようにしています。
- い子もいます。素話をする、絵本をよく読んでる子は想像できるのですが、そうでない子はすっと遊びに抜けていく。絵の無い本だとすーっと抜けていく子はいます。(質問：経験の差だと思いますか?)  
お母さんが読み聞かせをしているだろうなと思う子はよく聞いています。お母さんがすごく忙しくて、帰ってすぐ寝る子は読んでないと感じます。続き物は昨年よく読みました。(質問：一度にどのくらい読めますか?)  
エルマーだと1話。短いと3話。そこにたどり着くまでに意識してやってきました。続けていくと聞けるようになりますね。話の途中にちょっとでも絵があると違うんですよ。
  - 時期によって絵本コーナーの環境を変えています。修了前の今の時期は個人で過ごす時間にじっくり読めるスペースに椅子やソファを置いています。2学期は(保育室での活動が多いので)廊下に出してしまいました。
- 学期は3歳向けの紙芝居なども読んで楽しみました。話すことも同時に育てたいので、はじめは2人組で感想を言い合う機会を作り、思ったことが誰とでも言えるようにしました。感想はどこが面白かった? どうして? など具体的に話せるようにしました。次第に全体の中でも手を上げて発言できるようになってきました。国語の時間に暗唱ができれば拍手したり、毎日帰りの会で全員が発言する様にしたりしています。聞くことと話すことの経験を意図的に積み重ねています。
  - 文字が読めるようにという取り組みもしています。障害児のための研修でフラッシュカードを習ってきたので、1学期は文字を2学期は教科書の中の言葉をカードにしました。一人ずつ時間のあるときに呼んで、ストップウォッチでタイムを計って記録しました。繰り返すうちに大分読めるようになってきました。入学当初は本をべらべらめくっていたのが次第に自分で読めるようになってきました。
  - 「おはなし」を読む力をつけたいです。小学生になると文字を読む。耳で聞いた音を目で確かめる。お話を聞けると理解して行動に移せる。聞いて、どうしたらいいか考えられる。

### ① 絵本を用いた活動や環境の工夫

絵本が生活や遊びとのつながりの中で用いられている様子が語られていた。図鑑や科学絵本で調べたり、ごっこ遊びのイメージのすり合わせなどが絵本によってなされたりしていることがわかった。また、園等の蔵書を補う形で地域の図書館が活用されている。絵本を無作為に置いておく、または置いておかないのではなく内容理解された絵本を保育者が意図的、計画的に用意することの効果も示唆された。

園の実情に応じた課題も語られた。

質問紙調査では、50.0%の保育者が、保育者以外の読み聞かせの機会を特に設けていないと回答しているが、インタビューを行ったすべての施設で外部の人材活用がなされていた。外部の人材による読み聞かせの機会は、多様な人との関わりを創出し、保育者も幼児と同じ立場でお話の世界を味わい、共感する機会ともなり、その意味でも保育者以外の人々の読み聞かせは有効である。インタビューを通して、保育者以外の読み聞かせが幼児にとって一定の教育効果を挙げているという実感を持っていることが明らかになった。

また、特別な支援を必要とする幼児の実情に応じて、絵本の読み聞かせを行うための援助や環境が工夫されていた。

### ② 指導計画との関連

長期の指導計画と週案・日案など短期の指導計画の中で、絵本の選書や環境について検討されていた。絵本の読み聞かせを「聞く」ことは、遊びや生活の中で様々な経験を積むことで、より楽しめるようになる。また計画的に段階を追って「聞く」経験を重ねていくことで次第に挿絵が少なくても、長いお話でも、イメージを膨らませながら楽しむことができるようになる。このことは小学校へのつながりにも影響しているのではないか。絵本の読み聞かせを計画的に実施していくことの重要さが示唆された。

### ③ 小学校教育との連続性を踏まえた指導について

本を読んでもらうことを十分に楽しみ、次第に自分の力で読めるように、小学校においても様々な支援の工夫がなされていることが分かった。また、「聞くこと」と「話すこと」を育てることで、言葉に対する感覚を豊かにし、理解する力を育てることで自ら判断したり、進んで行動するための力を育む取組みが行われていることがわかった。

## Ⅲ 研究のまとめと今後の課題

### 1 研究のまとめ

#### (1) 保育者の絵本の読み聞かせに関する意識のあり方について

研究を通して、保育現場においてはクラスの幼児に対する読み聞かせはほぼ毎日平均1冊ずつ読み聞かせていることがわかり、絵本を読むという活動は日常的に行われている活動であることが改めて確認できた。しかし、質問紙の回答から保育者の読書傾向などを見てみると、余暇に読書をしている保育者(46.5%)、読書をあまりしない保育者(53.6%)との割合

はほぼ半々という傾向がある。このように個人的な好みの傾向は違っても絵本を幼児に読み聞かせるために選ぶ際に重視することは、「幼児の年齢や発達を考慮すること」(99.0%)「幼児の体験や遊び」(92.2%)「季節や行事」(81.5%)と、多くの保育者がこの3点を意識していることがわかる。

## (2) 読み聞かせ後の多様な対話から豊かな言葉や表現を育む

研究を通して、読み聞かせの後に幼児が発言することを良しとする保育者とそうではない保育者がいることがわかった。また、感想を聞く保育者は、読み聞かせ中の幼児のつぶやきに肯定的に発言する傾向にあることがわかった。このような肯定的な受け止めの中で、多様な対話が生まれ、幼児の語彙数も増えていくのではないかと考えられる。すなわち、読み聞かせをしながら、または読み聞かせ後に幼児が感じた事を言葉に出し合う関係を肯定できる保育者の存在が、幼児の豊かな言葉の表現を育むことにつながるのではないかと考えられる。

平成29年3月に告示された幼稚園教育要領において、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の「言葉による伝え合い」において、「絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身につけていく」ことの大切さが示されている。また、絵本の中で出会った言葉について感じたことを幼児同士で受け止め合いながら教師や友達と気軽に言葉をかわすことができる雰囲気や関係の中で伝えたいような体験をすることが大切であることも示されていることから絵本などの読み聞かせの後に、思わず感じた事や心に残ったことをつぶやく体験ができる雰囲気の中での絵本の読み聞かせとその後の環境や時間の過ごし方を大切にしたい。

## (3) コミュニケーションの場としての絵本コーナー

絵本を読み終わった後に絵本コーナーでその絵本に触れて幼児同士で一緒にその本を見る姿は多く見られる。そして、絵本を通して体験を共有すると同時に感じたことなどを発言し合うことで、さらに豊かな言葉の感覚や表現について共有しあうことができ、言葉による伝え合いを豊かにすることができる。インタビューでも「忍者ごっこが始まりそうなので、(廊下や保育室の)天井に仕掛けを作っておいたら、登園してすぐに昨日の帰りに読んだ絵本を取りに行き、『黒猫城に行くぞ』なんて言いながら忍者の格好で遊び始めました。」や「園庭で幼虫を見つけて、『これは何だ?調べてみよう』と図鑑を取りに行く姿が見られます。」という語りがあった。このことから保育室の中に環境として位置付けられている絵本が、幼児の日常の遊びや生活の中でイメージを共有したり、知りたいことを絵本や図鑑で調べようという行動になって現れたりしていることがうかがえる。こうした絵本のコーナーでは、幼児同士が感じたことを言葉に出したり受け止め合ったりすることによって、色々な感じ方があることを学び合えるコミュニケーションの場となる。絵本環境をただの絵本置き場にしないで、幼児が集える価値あるコーナーとして位置付けることも有効であることが分かった。

## 2 今後の課題

本研究の結果から、外部の人材活用による読み聞かせの機会が計画的に設定されている園とそうではない園とがあることが明らかになった。インタビューからは保育者以外の人による読み聞かせには、一定の効果が実感できるという回答を得たが、質問紙からは効果については不明である。また本調査ではわからなかったが、現状では絵本に対する潤沢な知識を持って新しい絵本を選定することは難しいのではないだろうか。研修や外部講師の活用が効果をもつことについて今後明らかにしたい。

絵本を通した対話について質問紙調査では読後に余韻を残すため、あえて感想は聞かないという記述が多かった。読後に感想を聞くと本嫌いになるという意見もあった。読み聞かせの在り方として、絵本は楽しむものだから質問魔や説明魔にならないこと、感想は聞かない、静かに聞くこと、じっくり浸ることを挙げている松岡(1987)、村上(1999)らの研究もある。研修会などでそのように学んだという保育者も多い。加古(2013)は「読後感」という言葉で感想と分けて、物語を読み終わったとき、胸の中に残る感じを「読後感」と定義している。読み聞かせの後、余韻に浸りながら胸に残る思いを伝え合う。言わされる、強要される「感想」ではなく思わず口を突いて出る「感想(読後感)」を読む人と聞く人たちとの間で共有できる楽しい機会を重ねていくことが就学以降の感想文嫌いを軽減させていくのではないだろうか。読後の有効な援助について今後検討したい。

本研究では、絵本を通した計画的環境における多様な対話が育むコンピテンスを、保育者がどれだけ意識的あるいは無意識的に育成しようとしているかについて、幼児の反応や行動観察において評価している姿が捉えられた。その評価は、幼児の発話に対する保育者の肯定的な発話がさらなる幼児の発話の活性化を生み出すという相互作用においてなされることが明らかになったことにより、絵本を通した豊かな対話を心がけることの重要性が示唆された。

より詳細には、実験法、観察法、質問紙法などを組み合わせたトライアングレーションにより、妥当性・信頼性のある評価を継続することが次なる課題である。

## おわりに

今回の調査結果をまとめると、読み聞かせ中のつぶやきに対して肯定的に保育者が発言したり、幼児の体験や遊びを重視して本を選ぶことが、読み聞かせ中の幼児の発話の活発化を生み、そのことが読み聞かせ後に本の内容を話題にしたり、遊びが展開されることにつながるということが示唆された。また、遊びとつながるように絵本を用意して環境構成に配慮することも、読み聞かせ後の内容を話題にしたり遊びへの展開に影響したりすることから、保育者が幼児の発言を良い方向に受けとめる姿勢と、環境構成への配慮の両方が重要ではないだろうか。なお、保育者が余暇に読書をするのが好きであるということも、読み聞かせ後の内容を話題にしたり、遊びが展開されることに影響する可能性があるという結果となったが、これがどのようなメカニズムで影響を及ぼしているのかは今回の結果だけでは

わからない。

また、幼児の体験や遊びを重視して読み聞かせの本を選ぶことが、遊びとつながるよう環境構成を配慮することに影響しているが、体験や遊びを重視した選書は指導計画・保育計画を重視した選書と正の弱い相関を示していることから、計画性を持って選書を行なうことが、遊びとつながる環境の設定に結びつくことになるということになる。保育者が関心を持ち、計画的に内容を吟味し、今何を読み聞かせするのが最適か、幼児が興味・関心を持ち、心に響くのかを検討しておくことが必要である。

今回の調査では、じっくり見たり読んだりできるような環境設定を重視しているかも質問しており、それには年齢や発達を重視して本を選ぶことが影響することが示唆された。例えば、幼児期運動指針（文部科学省、2012）において、発達特性に応じた運動遊びを提供することが大切であり、活動意欲を満足させることが幼児の有能感を育むことにつながる、と述べている。絵本の場合も、個々に応じた絵本を提供できる環境を整えることが有能感を高めることにつながる可能性と考えられる。保育者が選書を含めた絵本環境を整え、発言が活発に行なえるよう言葉がけすることで、多様な対話へとつながっていく基盤を実現させていくことが大切なのではないかと考える。

## 謝 辞

本研究は、平成29年度文部科学省「幼児期の教育内容等深化・充実調査研究」の委託を受け、松蔭大学が行ったものである。研究に当たり、東京都、千葉県、神奈川県、埼玉県、鳥根県において質問紙調査、インタビュー調査を行った。

日々の教育活動にお忙しい中、快く協力してくださった先生方に心より感謝申し上げたい。

## 引用文献

文部科学省(2017)幼稚園教育要領

文部科学省(2012)幼児期運動指針ガイドブック

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/sports/undousisin/1319772.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319772.htm)

松岡亨子(1987)えほんのせかいこどものせかい、日本エディタースクール出版部、1987

村上淳子(1999)先生、本を読んで！、ポプラ社、1999

加古有子(2013)用語「読後感」の位置付け、全国大学国語教育学会発表要旨集、Vol. 125, pp. 443-446

## 【参考資料】

# アンケート調査協力をお願い

平成29年12月

松蔭大学 コミュニケーション文化学部 子ども学科  
学科長 山下文一

本調査は文部科学省の平成29年度「幼児期の教育内容等深化・充実調査研究」の委託を受け、幼稚園等での日々の実践の中で絵本が環境としてどのように計画的に活用されているかについて調査を実施し、幼稚園等での幼児（幼稚園における「幼児」、保育所における「子ども」、幼保連携型認定こども園における「園児」のこと。以下、幼児とする）を取り巻く絵本の環境の現状を明らかにするとともに今後における絵本の活用の在り方について研究を行うものです。

つきましては、趣旨を御理解いただき本アンケートへの御協力をよろしく申し上げます。なお、アンケートによる研究結果の公表に当たっては個人や園が特定されることはありません。研究の協力は貴園及び記入される先生の御判断によって行ってください。アンケートの回答をもってアンケート協力の御同意を得たものとさせていただきます。アンケートにお答えいただける場合には平成29年12月15日までに御記入の上、返送をお願いします。

現在3～5歳児学級・クラスを御担当されている先生（幼稚園において学級を担当している幼稚園教諭、保育所においてクラスを担当している保育士、幼保連携型認定こども園において学級を担当している保育教諭のこと。以下、「先生」とする）がお答えください。

A 貴園についてお聞きします。

① 園種について当てはまる番号に○をつけてください。

1	2	3	4	5	6
公立 幼稚園	私立 幼稚園	公立 幼保連携型 認定こども園	私立 幼保連携型 認定こども園	公立 保育所	私立 保育所

※幼稚園型認定こども園は幼稚園、保育所型認定こども園は保育所として御記入願います。





- ⑦ 保育（幼稚園における「教育」、保育所における「保育」、幼保連携型認定こども園における「教育及び保育」のこと。以下、「保育」とする）の経験年数について当てはまる番号に○をつけてください

1	2	3	4
3年未満	3年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上

- ⑧ あなた御自身は余暇に読書（雑誌・コミック誌以外の文学作品など）をすることが好きで、読みますか。当てはまる番号に○をつけてください。

1	2	3	4
とても好きでよく読む	どちらかというが好きで読む	あまり読まない	ほとんど読まない

- ⑨ 今までに絵本に関する研修等に参加したことがありますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。その他の場合は（ ）内に具体的に御記入願います。

1	2	3	4	5
園内での研修	外部での研修	養成校での研修	その他 ( )	特に研修等には参加していない

C 先生が担当している学級・クラスについてお聞きします。

- ⑩ 現在担当している学級・クラスの年齢について当てはまる番号に○をつけてください。

1	2	3	4
3歳児	4歳児	5歳児	3～5歳混合

- ⑪ 現在担当している学級・クラスの幼児の人数を御記入ください。

( ) 人

- ⑫ 現在担当している学級・クラスでの1週間の教育時間等（幼稚園・幼保連携型認定こども園における教育課程に係る教育時間及び保育所における保育時間のこと。以下、「教育時間等」とする）を、学級・クラスの幼児が全員で一緒に同じ内容の活動を行う時間とその他の時間に大まかに振分けた時、幼児が全員で一緒に同じ内容の活動を行う時間の割合を御記入ください。（昼食や午睡、おやつは除く）

約 ( ) 割

⑬ 普段、学級・クラスの保育室に絵本は何冊程度用意しているか御記入ください。

約（            ）冊

⑭ 絵本を用意し保育室の環境構成を行う際に次の示すことをどれだけ重視しますか。当てはまる数字に○をつけてください。

	とても重視する	どちらかという重視する	それ程重視しない	重視はしない
幼児がじっくりと見たり読んだりすることができるよう配慮すること	1	2	3	4
遊びとつながるよう配慮すること（例：絵本の内容が遊びに取り入れられる・見つけたものを図鑑で調べられるなど）	1	2	3	4
幼児同士が複数人で見ることができるように配慮すること	1	2	3	4

⑮ 読み聞かせした後の絵本は幼児が自由に見たり読んだりすることができるようにしていますか。当てはまる番号に○をつけてください。

1	2	3	4
いつでもできるようにしている	時々できるようにしている	あまりしていない	特にはしていない

⑯ これから読み聞かせをしようとする予定の絵本は幼児が自由に見たり読んだりすることができるようにしていますか。当てはまる番号に○を付けてください。

1	2	3	4
いつでもできるようにしている	時々できるようにしている	あまりしていない	特にはしていない

⑰ 現在担当している学級・クラスでは家庭へ絵本の貸し出しをしていますか。当てはまる番号に○を付けてください。

1	2	3	4
定期的に行っている	不定期に行っている	していない	他の学級・クラスはしている

理由がありましたら御記入ください

--

D 先生が担当している学級・クラスでの絵本に関する活動についてお聞きします。

⑱ 先生による学級・クラス全員に対しての絵本の読み聞かせは1週間の教育時間等の中でどの位しますか。当てはまる番号に○をつけてください。

1	2	3	4
5冊以上	3～4冊	1～2冊	全体では読まない

⑲ 直近の1週間を振り返って、先生が絵本の読み聞かせをした際に、学級・クラス全体にではなく、学級・クラスの中のどれ位の幼児に個別に（一人でも数人でも希望者を対象に）絵本の読み聞かせをしましたか。当てはまる番号に○をつけてください。

1	2	3	4
ほぼ全員に対して	学級・クラスの半数以上	数人	個別にはしていない

⑳ 絵本の読み聞かせを行う本を選ぶ際に次に示すことをどれだけ重視しますか。当てはまる数字に○をつけてください。

	とても重視する	どちらかという重視する	それ程重視しない	重視はしない
読み聞かせを行う幼児の年齢や発達	1	2	3	4
読み聞かせを行う幼児の体験や行っている遊び	1	2	3	4
読み聞かせを行う時期の季節や行事	1	2	3	4
指導計画・保育計画	1	2	3	4

その他、絵本の読み聞かせの際の選書時に配慮していることがありましたら御記入ください。

--

- ⑳ 学級・クラス全体での読み聞かせ中に、幼児のつぶやきに対して肯定的な発言を行っていますか。当てはまる番号に○をつけてください。

1	2	3	4
いつもしている	時々している	あまりしない	しないようにしている

理由がありましたら御記入ください

- ㉑ 学級・クラス全体での読み聞かせ後に、幼児に対して感想を聞いていますか。当てはまる番号に○をつけてください。

1	2	3	4
いつもしている	時々している	あまりしない	しないようにしている

理由がありましたら御記入ください

- ㉒ 個別の読み聞かせ中に、幼児のつぶやきに対して肯定的な発言を行っていますか。当てはまる番号に○をつけてください。

1	2	3	4
いつもしている	時々している	あまりしない	しないようにしている

理由がありましたら御記入ください

- ㉓ 個別の読み聞かせ後に、幼児に感想を聞いていますか。当てはまる番号に○をつけてください。

1	2	3	4
いつもしている	時々している	あまりしない	しないようにしている

理由がありましたら御記入ください

--

- ②⑤ 現在受け持っている学級・クラスでは、読み聞かせ中に、幼児の絵本に関する発話が活発にありますか。当てはまる番号に○をつけてください。

1	2	3	4
よくある	時々ある	あまりない	ほとんどない

- ②⑥ 読み聞かせの後の活動で、絵本の内容が話題になったり、遊びで展開されたりしますか。当てはまる番号に○をつけてください。

1	2	3	4
よくある	時々ある	あまりない	ほとんどない

その他、絵本の読み聞かせを行う際に配慮していることがあったら御記入ください

--

絵本に関する学級・クラスや園での取組みなどありましたら御記入ください

--

御協力ありがとうございました。

12月15日までに御記入の上、記入して下さった方全員分を、返信用封筒にてお戻しく  
さいますよう、お願い申し上げます。

アンケートに関するお問い合わせ先  
松蔭大学 コミュニケーション文化学部子ども学科 古金悦子  
メール [furukane@shoin-u.ac.jp](mailto:furukane@shoin-u.ac.jp) 電話 046-247-1511(代表)

■編集者（松蔭大学コミュニケーション文化学部）

石上 七輔（学部長 教授）  
山下 文一（子ども学科 学科長 教授）  
永井由利子（子ども学科 教授）  
小野 和（子ども学科 教授）  
大沢 裕（子ども学科 教授）  
石橋 優子（生活心理学科 教授）  
古金 悦子（子ども学科 准教授 研究代表）  
後田 紀子（子ども学科 准教授）  
塩野谷祐子（子ども学科 准教授）

■外部協力者

大貫 麻美（白百合女子大学 准教授）  
山本 佐江（帝京平成大学 准教授）  
土井美香子（株式会社内田洋行 ユビキタスライブラリー課 図書館アドバイザー）  
原口 るみ（NPO法人ガリレオ工房 理事長秘書）

■事務局（松蔭大学）

原 枝里子（総務部 事業連絡担当）  
古賀 琴美

■研究協力園・校

葛飾区立水元幼稚園	石井 恭子（園長）
	山中 敦子（教諭）
	佐藤 由季（教諭）
文京区立本駒込南保育園	豊田千恵子（園長）
	久保川深生（保育士）
	西村 信一（保育士）
島根県雲南市立鍋山幼稚園	園山 嘉則（園長）
島根県雲南市立鍋山小学校	森山 雪美（校長）
	松下富美子（教諭）
	山根小百合（教諭）

（敬称略）

## 謝 辞

本研究は、平成29年度文部科学省「幼児期の教育内容等深化・充実調査研究」の委託を受け、松蔭大学が行ったものである。研究に当たり、東京都、千葉県、神奈川県、埼玉県、島根県において質問紙調査、インタビュー調査を行った。

日々の教育活動にお忙しい中、快く協力して下さった先生方に心より感謝申し上げたい。

「絵本を通じた計画的環境による教育内容の深化・充実について」  
～多様な対話が育む幼児期のコンピテンスとその評価～

2018（平成30）年3月

松蔭大学

〒243-0124 神奈川県厚木市森の里若宮9番1号

松蔭大学コミュニケーション学部子ども学科

電話 046-247-1511（代表）

本報告書は、文部科学省の「平成29年度 幼児期の教育内容等の深化・充実調査研究」の委託費による委託業務として松蔭大学が実施した「絵本を通じた計画的環境による教育内容の深化・充実について ～多様な対話が育む幼児期のコンピテンスとその評価～」の成果を取りまとめたものです。したがって、本報告書の複製、転載、引用等に当たっては文部科学省に承認手続きが必要です。